

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)
(カタール:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/Qatar.html>)
(天然ガス:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/Gas.html>)
(政府系ファンド:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SWF.html>)
マイライブラリー:0287

(注)本稿は2013年11月3日、11日及び16日の3回にわたりブログ「内外の石油情報を読み解く」及び「アラビア半島定点観測」に連載した記事をまとめたものです。

2013.11.17
前田 高行

舵を切るカタール

目次	頁
外交:GCC 協調に舵を切る	1
エネルギー:LNG の販路開拓を焦るカタール	2
金融(政府系ファンド SWF):ヨーロッパ偏重からアジアへ目を向ける	4

カタール首長がハマドから息子のタミームに交代して以来4カ月が過ぎた。中東の君主制国家の歴史で君主が生前に譲位するのは極めて珍しいことである。ハマドが未だ61歳の若さで健康にも特に問題がなかったと見られるだけにその真意をめぐり種々の憶測も流れた。(* 注)

(* 注)拙稿「カタール首長禅譲の謎に迫る」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0272QatarTamim.pdf>

それはともかく新首長は即位後直ちに一族のアブダッラー内相を首相に任命し内閣の若返りを図った。以来4カ月、ここにきてタミーム首長体制が本格的に動き出した。本稿では外交、エネルギー、金融の各分野について新たな動きを検証してみたい。

外交:GCC 協調に舵を切る

タミーム新首長は即位後の8月初め、最初の外国訪問先としてサウジアラビアを訪れている¹。サウジはGCCの盟主であり先ずは順当な外交デビューであった。そしてハジ(巡礼月)が明けた10月末、彼はサウジ以外のGCC4カ国(UAE、オマーン、クウェイト及びバハレーン)を歴訪したのである²。カタールはGCC6カ国の中で最も人口が少ない(カタール政府は同国の人口が2百万人を突破したと報じているが³、そのほとんどは出稼ぎ外国人労働者であり実際の自国民は30万人前後にすぎずバハレーンよりも少ない)。1980年生まれタミーム首長は未だ33歳の若さであり、サウジアラビアのアブダッラー国王(90歳)を始め各国元首とは祖父と孫或いは父と子供ほども年齢に開きがある。タミームが即位直後にサウジアラビア、そし

て今回残る4カ国を歴訪したのは年長者を敬うベドウィン(アラブ遊牧民)の伝統を体現したものであろう。とにかこの歴訪によってカタールはGCC重視の姿勢を明確に示したと言える。

実は彼の父ハマド前首長と他のGCC諸国の関係は必ずしもじっくりとしたものではなかった。ハマドが自国の存在感を示すため独自外交を推進したからである。リビアでは当初カダフィとの仲を取り持ってフランスの歡心を買ったが⁴、「中東の春」では一転してカダフィ打倒のNATO空爆に参加し西欧での同国の評価を高めた。スーダン、イエメン紛争でも独自の仲介外交を行い、最近では首都ドーハにアフガニスタンのタリバン事務所の開設を認めた⁵。そして揺れるエジプトについてはムスリム同胞団を積極的に後押しし、政権が経済運営に失敗するや多額の援助でムルシ大統領を支えた。

ここにあげたカタールの対リビア、対エジプト外交はサウジアラビアを筆頭とする他のGCC各国のそれとは全く逆だったのである。リビアの場合GCC諸国はNATOのリビア空爆に反対であった。カダフィを許せないとしてもGCC諸国は何かにつけて中東に民主主義を押し付ける欧米諸国を苦々しく思っておりNATOの軍事介入は容認できなかったのである。アフガニスタンの場合、タリバンは国際テロ組織アル・カイダのルーツである。エジプトの場合もカタール以外のGCC各国はイスラム原理主義のムスリム同胞団を危険な存在と見ている。

他のGCC諸国の神経を逆なでしてまでもカタールのハマド首長が独自外交にこだわったのは、カタールの国際的名声を高めたいとする彼一流のパフォーマンスであった。国内にアル・カイダ、イスラム原理主義など政治的な反政府勢力が無く、しかも天然ガスのおかげで経済が絶好調のカタール。ハマドには恐れるものは何もなかったのである。

加えて彼にはアル・ジャジーラTVと言う世界が認めた強力なメディアがある。「一つの意見とその反対意見(One opinion and its counter opinion)」をモットーとするアル・ジャジーラはそれまでには無かったタイプのテレビ・メディアとして中東各国にとって煙たい存在である。サウジアラビアも数度にわたり支局の閉鎖を命じるなどアル・ジャジーラは各国との外交問題の火種となってきたが、カタールはその都度報道の自由を重視する西欧各国を味方につけて切り抜けてきた。

しかしその神通力に陰りが生じている。それはエジプト政変に対するアル・ジャジーラの報道にイスラム同胞団びいきの姿勢が強く出ていることである。一部ではアル・ジャジーラがイスラム同胞団に乗っ取られたとも言われている。ハマド前首長の末期にはカタールと他のGCCとの溝がかなり深くなっていた。

タミム新首長はその溝を埋めようとしている。彼がGCC5カ国のトップと意見を交わしたことはカタールがGCC寄りの外交に舵を切ったことを意味する。12月に開催される恒例のGCC首脳会議が見ものである。

エネルギー:LNGの販路開拓を焦るカタール

去る9月10日に東京で第2回LNG産消会議が開催され、冒頭に消費国及び生産国を代表してそれぞれ茂木経産相及びカタールのアル・サダ・エネルギー大臣が基調講演を行った。会議の目的はLNGの生産

国と消費国が一堂に会し率直な議論を通じて LNG 市場の健全な発展を図ることとされている⁶。しかし会議を主催した日本側の真の目的が高止まりしている日本向け LNG 価格の引き下げであることは言うまでもない。

日本の LNG 価格は原油価格に連動しており、また長期間の引き取り保証及び転売禁止と言う硬直的な契約である。日本が初めてカタールから LNG を輸入した1997年当時は原油価格が低迷しており LNG 生産国も数少なかったため、この契約方式は必ずしも日本にとって不利なものとは言えなかった。しかしここ数年 LNG の市場環境に劇的な変化が生まれた。100ドルを超える高値が続く原油価格に連れて日本向けの LNG 価格は高騰したが、シェールガス・ブームに沸く北米ではむしろ天然ガス価格は下落しており、現在両者の価格差は4倍に達する⁷。さらに世界各地に LNG 輸出プラントが建設される一方、輸入設備を新設する消費国も増加した結果、LNG 貿易が活発になりスポット取引も増えている。

(参考)「天然ガス価格の推移(2000～2012年)」<http://members3.jcom.home.ne.jp/maedaa/2-5-G01.pdf>

将来天然ガスが原油と同様市場商品(コモディティ)となることは間違いないであろうが、当面天然ガスは売り手市場である。売り手の最大の勝者は世界最大の LNG 輸出量を誇るカタールであり、負け組は原発事故のあおりで高値の LNG を買う他ない日本であろう。LNG 産消会議は生産国を巻き込んで現行の契約形態を改善し、あわよくば価格を引き下げようと言う日本の思惑の産物であり、会議に参加する天然ガス生産国を何とか協議のテーブルにつかせようとする魂胆は明らかである。

しかし現在の市況に120%満足しているカタールが日本の誘いに乗る訳はなく、同国のアルサダ・エネルギー相は会議でも産消双方が市場の秩序維持に協力すべきである、と紋切り型の演説に始まり、LNG の最大輸出国としてカタールは天然ガスの安定供給に寄与している、と自国の PR に余念がなかった。カタールは日本の誘いに乗って価格メカニズム変更を検討する気は毛頭なさそうだ。年産7,700万トンと言う世界最大の LNG 生産設備を有し、これまた世界最大の54隻の LNG 船隊を保有するカタールは横綱の風格でおっとり構えている。

だがそのようなカタールにも少しずつではあるが逆風が吹き始めている。7,700万トンの LNG の販路開拓がままならなくなったのである。その最大の要因は米国のシェールガス革命と欧州の景気後退であろう。シェールガス革命を予想していなかったカタールは、Qatargas の第3期、第4期(年産各780万トン)および RasGas 第3期(トレイン6及び7、年産各780万トン)の仕向け先として当初米国を予定していた⁸。しかしカタールにとって米国は LNG の輸出先どころか競争相手になろうとしている⁹。また米国内の天然ガス増産で販路を失った石炭が欧州市場に向かい、あおりで欧州の天然ガスの需要がしぼんだ。直接的な影響を受けたのはロシアであるが、英国に LNG 基地を新設し欧州への売り込みを本格化させようとしていたカタールの目論見も外れた。

LNG の残された有望市場は原発稼働ゼロの日本と今後も経済発展が見込める中国、インドなどのアジア・極東市場である。同地域は今後 LNG 販売の激戦区になることは間違いない。南からはオーストラリアが相次ぐ設備の新增設でカタールをしのご世界一の LNG 輸出国を目指している。そして東からは米国の

LNG 輸出が始まろうとしており、さらに北のロシアはシベリア・サハリン産 LNG の輸出を拡大している。

カタールはアジア市場でオーストラリア、米国、ロシアとの競争に直面し、これまでのような殿様商売は通じなくなりつつある。最近のニュースを見るとカタールが LNG の販売シェア維持のためやみくもに動き回っている気配がうかがえる。いくつかの例をあげると米国テキサスに LNG の輸出基地を建設することを ExxonMobil と合意しており¹⁰、或いは近い将来 LNG 船団を年間25隻建造する予定があり¹¹、シンガポールに LNG 戦略輸出基地を設ける構想もある¹²。9月には Qatargas がマレーシアに来年から向こう5年間 LNG を毎年114万トン供給する契約も交わされた。これは英国 Milford Haven の LNG 基地から供給されることになっている¹³。この契約に Qatargas の事実上のオペレーターである ExxonMobil が深くかかわっていることは間違いのないであろう。カタール産 LNG の販売不振は ExxonMobil 本体の経営にも影響するはずだからである。と同時に英国基地を経由することにより LNG のダンピング輸出も十分考えられる。カタールの一連の動きは ExxonMobil の入れ知恵であろう。殿様商売のカタールにはそのような高度な戦略的思考があるとはとても思えないからである。

金融(政府系ファンド SWF):ヨーロッパ偏重からアジアへ目を向ける

GCC 諸国の政府系ファンド(Sovereign Wealth Fund, 以下 SWF)としてはアブダビ投資庁(ADIA)或いはクウェイト投資庁(KIA)が有名であり巨額の資産を運用しているが、天然ガス(LNG)輸出による余剰資金が豊富なカタールにも有力な SWF がある。同国最大の SWF はカタール投資庁(Qatar Investment Authority, QIA)であり、世界的な SWF 調査機関 SWF Institute(米国)によれば QIA の資金量は世界第 12 位の 1,150 億ドルとされている。因みに 1 位はノルウェー政府年金ファンドの 7,372 億ドルで、ADIA は第 3 位(資金量 6,270 億ドル)、KIA は第 6 位(同 3,860 億ドル)である。

QIA は ADIA、KIA に比べ規模が小さいが、2011 年 7 月の SWF Institute レポートでは 850 億ドルであり 2 年余りで 300 億ドル(約 3 兆円)増加している。ただ QIA に限らず GCC 各国の SWF は財務内容がベールに包まれており、SWF Institute は QIA の透明度を 10 段階の中間の 5 と評価しており、透明度 10 のノルウェー政府年金ファンドに比べ見劣りがする。

QIA は ADIA、KIA に比べて歴史が新しく¹⁴、ADIA、KIA が 2008 年のリーマンショックで深手を負った際も QIA はほとんど無傷であった。そのためリーマンショック以降 QIA はハマド前首長のもとで積極的な投資活動を行ってきた¹⁵。当時の QIA の投資行動はほぼ 4 つの分野に分けることができる。それは(1)金融不安に陥った欧州の銀行への資金注入、(2)両国トップの信頼関係によるフランス企業への投資、(3)サッカーワールドカップ開催に関連した投資、及び(4)ホテルなど海外での観光(tourism)分野への投資、の四分野である。

銀行への資金注入としては金融危機に陥ったスペイン及びギリシャの銀行にそれぞれ 3 億ユーロ及び 5 億ユーロを貸し付けている(2011 年)。サルゴジ大統領とハマド首長(共に当時)の個人的信頼関係が強固であったフランスに対しては水企業 Veolia の株取得(2010 年 4 月)及び原子力企業 Areva の株取得(2010 年 11 月)がある。さらに 2022 年の開催地となったサッカーワールドカップ関連では仏サッカーチーム Paris St

Germain の買収(2011 年 6 月)があり、独建設企業 Hochtief 社の 9.1%株式取得もワールドカップ施設建設をにらんだ戦略と思われる。そして観光分野ではカナダのフェアモントホテル株 40%取得(2010 年 4 月)、スペインの保養地 Golden Coast のマリナー買収(2011 年 7 月)、英国の F1 サーキット運営権の買収(同年 8 月)など QIA は矢継ぎ早やの投資を行った。

上記を見ても解るとおり QIA の投資はこれまで西欧諸国が殆どであった。その理由は QIA 内部の投資コンサルタントが欧米金融機関からの派遣者或いは OB だからである。彼らお雇い外人たちは手っ取り早く成果を上げ、しかも失敗のリスクを抑えるために M&A 情報を得やすい欧米市場に絞り込み、リスクが不確かなアジアなど新興市場を敬遠したのは当然のことであろう。彼ら欧米人コンサルタントが破格の待遇を受けていることは一部で「Qatar is a gold mine for advisors」と報道されていることからもうかがい知れる¹⁶。彼らにとってカタールはまさに「いいカモ」であった。

欧米投資のリターンがどの程度であったかはわからない。QIA の透明度は低く、運用情報は全く開示されていない。しかし常識的に考えてもスペインやギリシャの銀行に対する投資がペイしたとは考えにくい。それどころか元本割れで多額の損失を抱えている可能性は否定できない。また仏企業 Veolia や Areva の株取得或いは Paris St Germain の買収は金満国家カタールの名を高めることには寄与したかもしれないが経済合理性に見合っていたかどうかは甚だ疑わしい。サルコジ大統領が退陣したあとフランスでは極右国粋主義者のルペンがイスラム国カタールの対仏投資にかみついているほどである¹⁷。

QIA はこれまでも中国銀行株の IPO 投資(2010 年 6 月)やシンガポールの名門ホテル Raffles の買収に動くなどアジアでの投資を行っているが、今後これまでのヨーロッパ偏重からアジア投資重視の動きが本格化しそうである。その布石として QIA は今年 8 月香港在住の元銀行マンを M&A 部門のトップに据え、またモルガンスタンレーのアジア地区担当責任者を新設のインフラ投資チームに招いている¹⁸。

以上、カタール首長交代後の同国の外交、エネルギー及び金融各分野における新たな動きを概観した。これらの動きが今後加速するかどうかはまだしばらく様子を見る必要があるだろう。皇太子時代のタミーム新首長の言動から見る限り、彼は父親ほどの剛腕ではなさそうだ。と言うよりも側近のお膳立てに従い、敵を作らないように慎重に事を運ぶ性格のようであり人の良い二代目の風貌である。カタールはゆっくり慎重に舵を切っていくのであろう。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

-
- ¹ Arab News on 2013/8/2, 'KSA, Qatar review ties' <http://www.arabnews.com/news/460074>
- ² Gulf Times on 2013/10/30, 'Qatar and Oman seek ways to expand co-operation'他
<http://www.gulf-times.com/qatar/178/details/370074/qatar-and-oman-seek-ways-to-expand-co-operation>
- ³ Gulf Times on 2013/10/2, 'Qatar's population crosses 2mn mark'
<http://www.gulf-times.com/qatar/178/details/367467/qatar%e2%80%99s-population-crosses-2mn-mark>
- ⁴ 拙稿「サルコジのカモにされたカタール首長夫妻」
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0228VipTheatreQatarHamad.pdf>
- ⁵ Gulf Times on 2013/6/18, 'Taliban set to open office in Doha'
<http://www.gulf-times.com/qatar/178/details/356681/taliban-%e2%80%98set-to-open-office-in-doha%e2%80%99>
- ⁶ 経済産業省 HP「第2回 LNG 産消会議を開催しました」参照
<http://www.meti.go.jp/press/2013/09/20130910009/20130910009.html>
- ⁷ 2013.11.8 付け日本経済新聞「LNG 取引市場を創設」より
- ⁸ 「石油・天然ガスレビュー」(JOGMEC 2009.11 Vol.43 No.6)「中東地域の天然ガス(上)」P27 参照
- ⁹ 拙稿「シェールガス、カタールを走らす」(2010年7月)参照。
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0148ShaleGasQatar.pdf>
- ¹⁰ Gulf Times on 2013/5/11, 'Qatar, ExxonMobil in deal on US LNG export terminal'
<http://www.gulf-times.com/business/191/details/352151/qatar%2c-exxon-mobil-in-deal-on-us-lng-export-terminal>
- ¹¹ Gulf Times on 2013/6/2, 'Nakilat to build 25 vessels per year'
<http://www.gulf-times.com/qatar/178/details/354782/nakilat-to-build-25-vessels-per-year>
- ¹² Gulf Times on 2013/8/13, 'Singapore emerges strategic hub for Qatar LNG'
<http://www.gulf-times.com/business/191/details/362672/singapore-emerges-strategic-%e2%80%98hub-for-qatar-lng-exports%e2%80%99>
- ¹³ Gulf Times on 2013/9/18, 'Qatargas, Petronas UK sign 5-year LNG supply deal'
<http://www.gulf-times.com/business/191/details/366125/qatargas%2c-petronas-uk-sign-5-year-lng-supply-deal>
- ¹⁴ 拙稿「湾岸各国の SWF I~IV」参照。<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SWF.html>
- ¹⁵ 拙稿「湾岸産油国 SWF Part VI: 動くカタール、動かぬサウジアラビア」(2011年5月)参照。
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0201GccSwfPart6.pdf>
- ¹⁶ Kuwait Times on 2012/10/3, 'Qatar is a gold mine for advisors',
<http://news.kuwaittimes.net/2012/10/02/qatar-is-a-gold-mine-for-advisors/>
- ¹⁷ Kuwait Times on 2013/6/24, 'France, Qatar end dispute with new fund'
<http://news.kuwaittimes.net/france-qatar-end-dispute-with-new-fund/>
- ¹⁸ Gulf Times on 2013/10/29, 'Qatar investment fund in emerging markets push',
<http://www.gulf-times.com/qatar/178/details/370015/qatar-investment-fund-%e2%80%98in-emerging-markets-push%e2%80%99>